

保育施設における感染性胃腸炎の集団発生について

令和7年4月17日、南筑後保健福祉環境事務所管内の保育施設（筑後市）から、複数の園児及び職員が嘔吐、下痢の症状を呈しているとの報告がありましたのでお知らせします。

1 発生状況

- ① 初発患者の発症日 : 4月 11日（5歳 1名）
- ② 4月17日までの発症者数 : 園児 18名（内訳は下表のとおり）
職員 4名（内訳は下表のとおり）
- ③ 主な症状 : 嘔吐、下痢

【園児】

内訳	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
男性	0	0	1	1	1	7	10
女性	0	0	0	2	2	4	8

【職員】

内訳	20代	30代	40代	50代	合計
男性	0	0	0	0	0
女性	1	0	0	3	4

【新規発症者数】

発症日		4/11	4/12	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17
新規 発症者数	園児	1	3	0	0	2	11	1
	職員	0	0	0	0	0	4	0
	合計	1	3	0	0	2	15	1

2 4月17日時点の有症状者数

12名（園児 11名、職員 1名）

※発症者22名のうち、入院者が1名いるものの重症者はいない。

3 原因

現在調査中

4 行政対応

南筑後保健福祉環境事務所が当該施設に対して、健康調査及び疫学調査を実施の上、まん延防止の指導を行っている。

お 願 い

※ 報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いします。

◆県民の皆様へ◆

感染性胃腸炎について

- 細菌やウイルスなどの感染による嘔吐、下痢を主症状とする病気です。
- ロタウイルスやノロウイルスなどのウイルスによる感染を原因とするものが多く、毎年秋から冬にかけて流行します。
- 乳幼児に好発し、1歳以下の乳児は症状の進行が早いため、注意が必要です。

《症状》

- 病原体により異なりますが、1～3日程度の症状のない期間の後に症状が出現します。
- 主な症状は嘔吐と下痢です。37～38℃の発熱がみられることもあります。
- 原因となる細菌やウイルスなどにより、発熱、下痢、悪心、嘔吐、腹痛など異なる症状が見られ、症状の程度にも個人差が見られます。
- 感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

《感染予防のポイント》

- 食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
- 下痢や嘔吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
- 患者の便や吐物は適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。
- 病原体に汚染されている可能性がある食品は、中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、調理器具等は十分に洗浄、消毒しましょう。